



2023年9月29日

Japan Beyond Coal (JBC) 3周年記念イベント

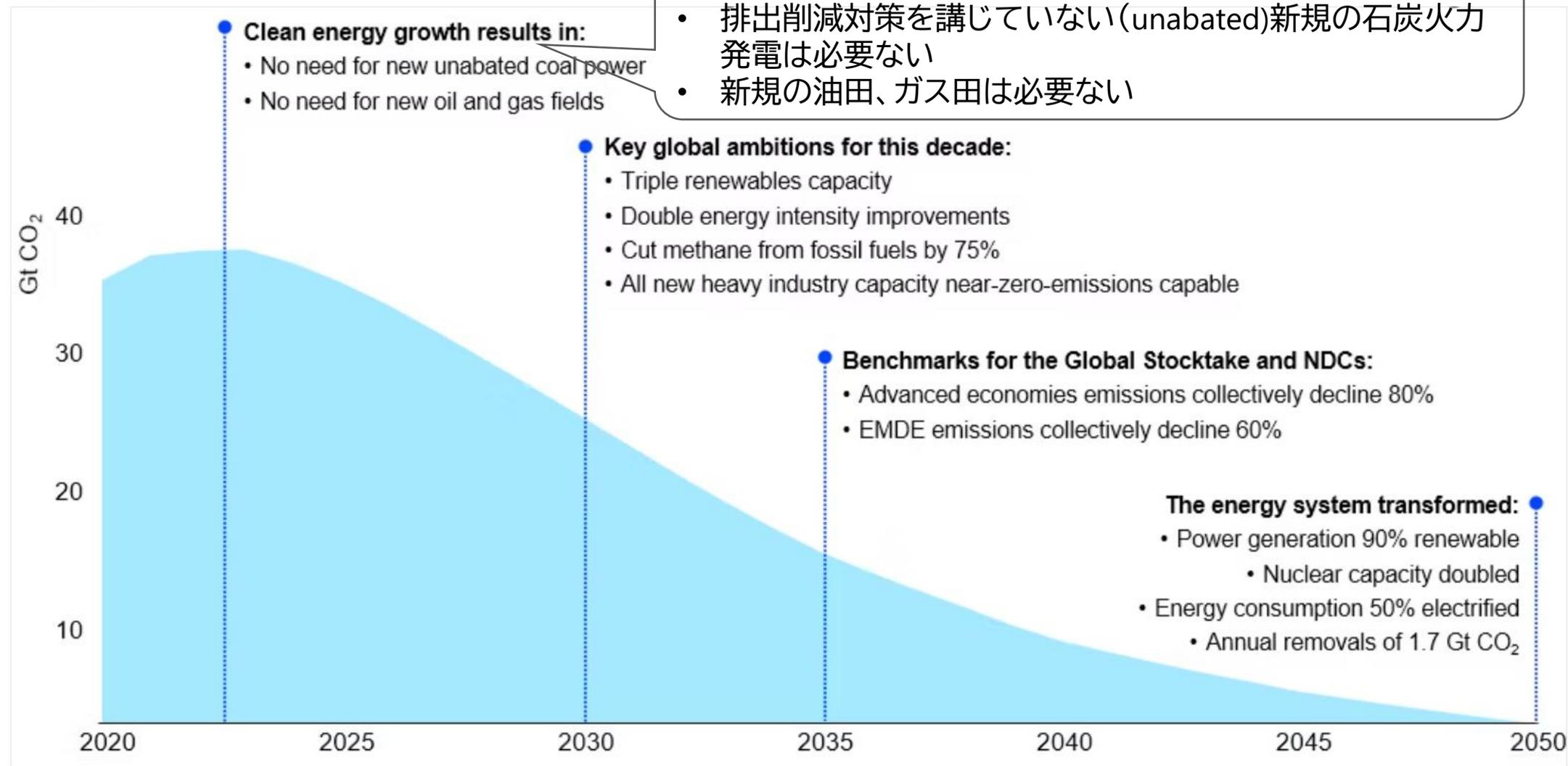
～1.5°C目標に向け目指すべき姿と現状のギャップをいかに埋めるか

国際動向と今後の展望

気候ネットワーク 田中十紀恵

IEAによる2050ネットゼロシナリオ(2023)

A roadmap to net zero by 2050



IEA (2023), Net Zero Roadmap: A Global Pathway to Keep the 1.5 °C Goal in Reach, IEA, Paris

<https://www.iea.org/reports/net-zero-roadmap-a-global-pathway-to-keep-the-15-0c-goal-in-reach>, License: CC BY 4.0

IEAによる2050ネットゼロシナリオ(2023)

- 気温上昇を1.5°Cに抑えることは難しくなってきたが、まだ可能
- 2022年のエネルギー部門のCO2排出量は過去最高だったが、太陽光発電導入や電気自動車の売上増といったポジティブな変化も
- 化石燃料の需要を減らすには、**再エネの拡大と省エネ**
- 石炭、石油、天然ガスへの投資は必要ない (there is no need for investment in new coal, oil and natural gas)
- **すでにある技術で対策を加速させる、そのための投資が必要**
 - 電力部門の脱炭素化のために再エネ導入を拡大する

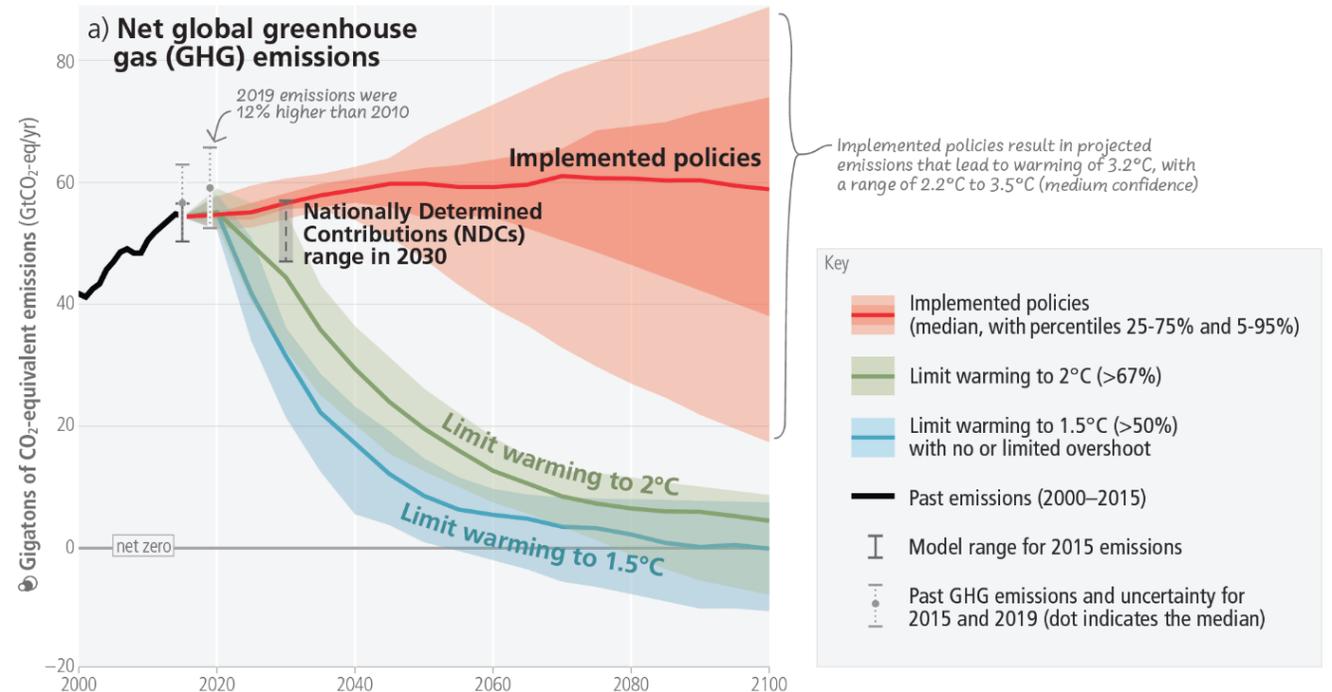


IPCC第6次評価報告書 統合報告書(2023年3月)

- 1.5°Cへの道筋と各国削減目標のギャップは依然として開いたまま
- 持続可能な将来を確保するための機会の窓は急速に閉じられている
- この10年の温室効果ガスの急速かつ大幅な排出削減が必要

Limiting warming to 1.5°C and 2°C involves rapid, deep and in most cases immediate greenhouse gas emission reductions

Net zero CO₂ and net zero GHG emissions can be achieved through strong reductions across all sectors



地球温暖化を1.5°C以内に抑えるためのCO2排出削減目標(2019年比)

- 2030年までに48%
- 2035年までに65%

Table SPM.1: Greenhouse gas and CO₂ emission reductions from 2019, median and 5-95 percentiles. {3.3.1, 4.1, Table 3.1, Figure 2.5, Box SPM.1}

	Reductions from 2019 emission levels (%)				
		2030	2035	2040	2050
Limit warming to 1.5°C (>50%) with no or limited overshoot	GHS	43 [34-60]	60 [49-77]	69 [58-90]	84 [73-98]
	CO ₂	48 [36-69]	65 [50-96]	80 [61-109]	99 [79-119]
Limit warming to 2°C (>67%)	GHG	21 [1-42]	35 [22-55]	46 [34-63]	64 [53-77]
	CO ₂	22 [1-44]	37 [21-59]	51 [36-70]	73 [55-90]

政策決定者向け要約(https://www.ipcc.ch/report/ar6/syr/downloads/report/IPCC_AR6_SYR_SPM.pdf)より、Table SPM.1

2023 G7首脳コミュニケ(気候変動・エネルギー分野)

- ✓ 2030年までの再エネ導入目標
- ✓ 2035年までの電力部門の全部(fully)または大部分(predominantly)の脱炭素化
- ✓ 排出削減対策が講じられていない(unabated)新規の石炭火力発電の建設を終了
- ✓ 国内の排出削減対策が講じられていない(unabated)石炭火力発電のフェーズアウトを加速

⚠ 石炭火力の廃止年限は明示できず

⚠ ロシアのウクライナ侵攻を踏まえ、ガス部門への公共投資を許容

⚠ 水素・アンモニアの利用(厳格な条件付き)、CCUS、原子力に言及



水素・アンモニア混焼に対する反応は

G7諸国

- 英国、カナダ、アメリカがインタビューで水素・アンモニア混焼技術に疑問を呈す
- 英国、フランスらが発電部門での燃料アンモニアの記載削除を求めた

気候科学

- IPCC新議長のジム・スキー氏はインタビューで「アンモニア混焼は世界にとって有効な手段ではない」との見解を示す

Japan's coal tech for Asia questioned by U.K. and Canada

<https://asia.nikkei.com/Spotlight/G-7-in-Japan/Japan-s-coal-tech-for-Asia-questioned-by-U.K.-and-Canada>

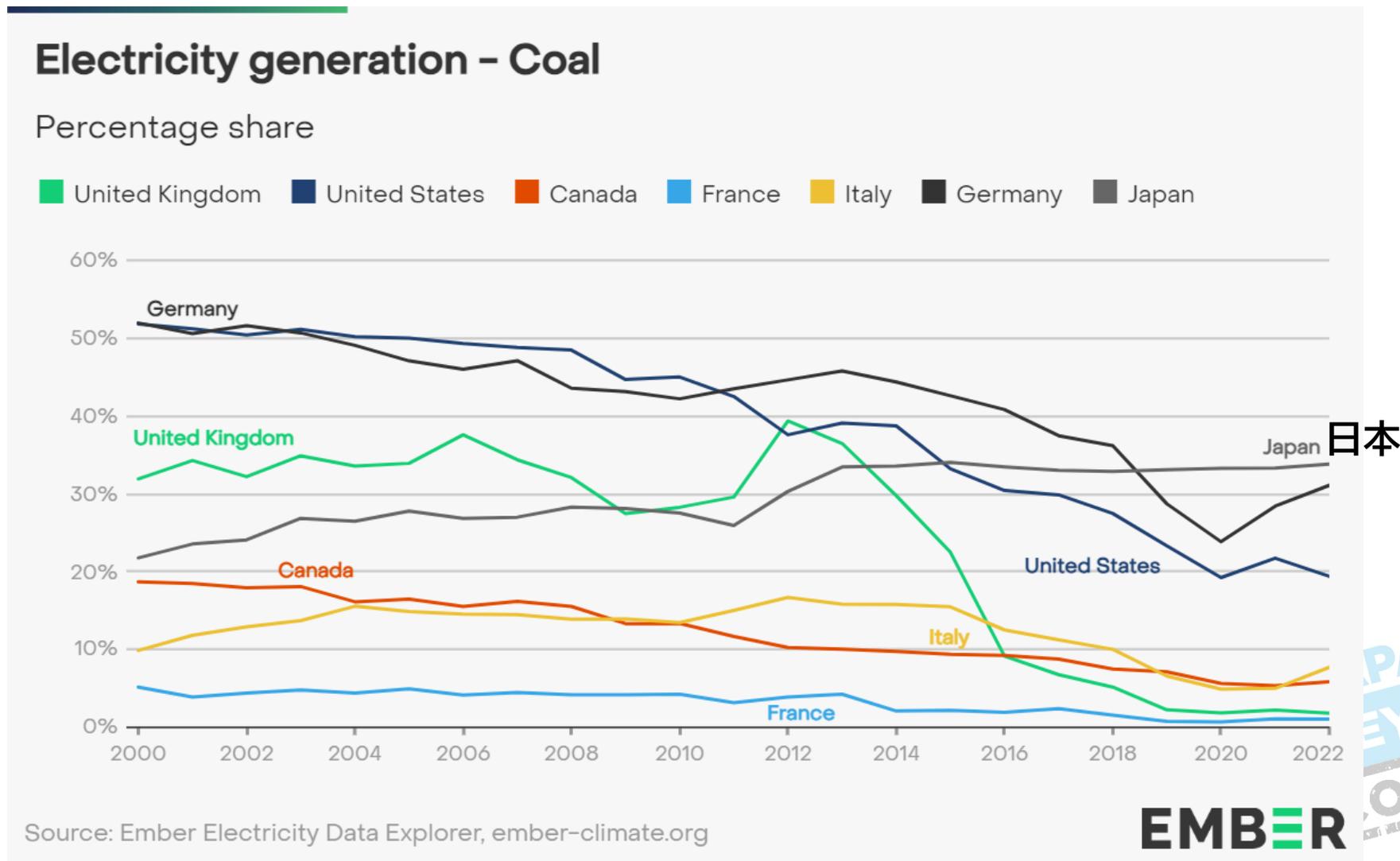
日本が構想する火力発電のアンモニア混焼 ケリー米特使が懸念示す <https://mainichi.jp/articles/20230418/k00/00m/040/227000c>

Japan pushes for 'realistic' approach to hitting net zero <https://www.ft.com/content/3b58fef9-d92f-46ea-9f40-e9d59e55c3c4>

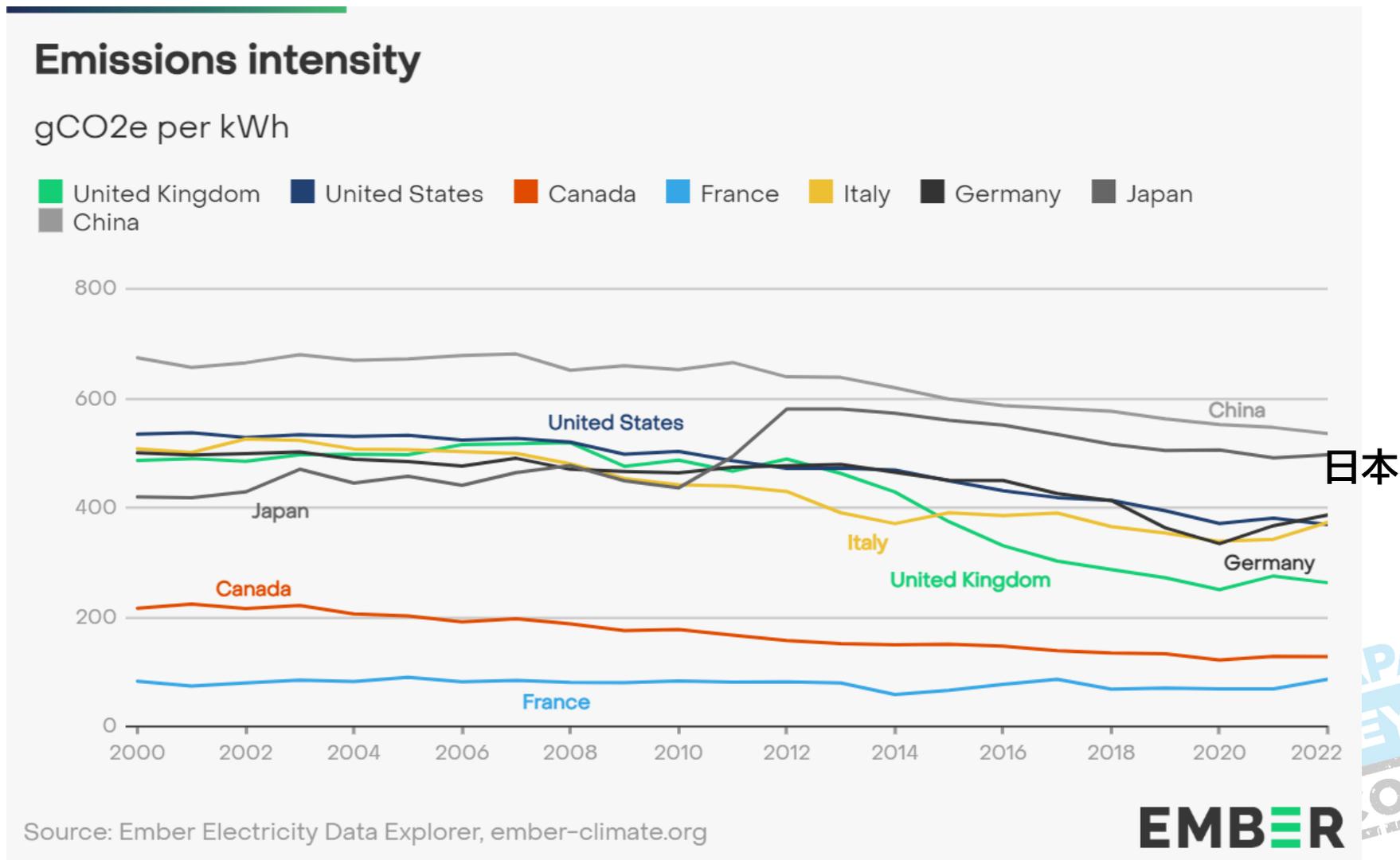
ジム・スキーIPCC新議長に聞く 温暖化抑止へ 先進国は野心的目標を <https://mainichi.jp/articles/20230808/ddm/013/040/012000c>



石炭火力発電による電力の割合(G7)



CO2排出原単位の比較(G7)



Ember: Data Explorerより <https://ember-climate.org/data/data-tools/data-explorer/>

グローバル・ストックテイク 技術的対話からの示唆

- パリ協定の目標達成のためには、NDCの緩和野心の引き上げと、実施の強化の両方が必要
- あらゆる分野でのシステム改革： 再エネの導入拡大、排出削減対策が講じられていない(unabated)全ての化石燃料からのフェーズアウト等
- 再エネ拡大、排出削減対策が講じられていない(unabated)化石燃料からのフェーズアウトは、ネットゼロに向けた公正なエネルギー移行にとって不可欠な要素



2030年脱石炭に向けた公正な移行

- ✓2030年脱石炭を表明
- ✓再生可能エネルギーへの転換を加速(資金、人材育成など)
- ✓エネルギー転換による影響を受ける地域や人への支援
- ✓国内だけではなく、国際協力を通じて世界規模で拡大させていく





ありがとうございました！